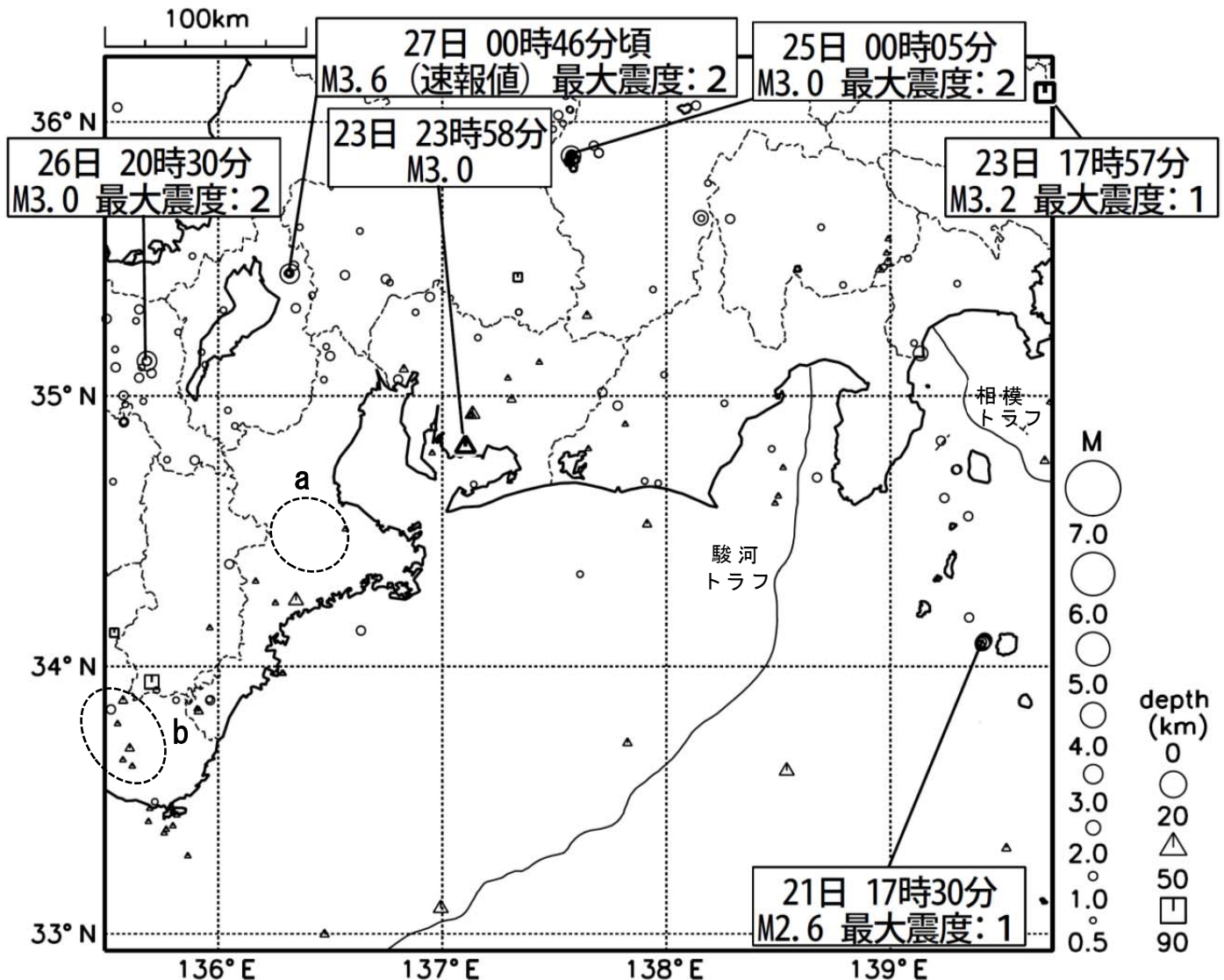


東海地域の週間地震活動概況 No. 30

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（2017年7月21日～7月27日）



“震度1以上を観測した地震”、“東海地域でM3.0以上、その他の地域でM4.0以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

【概況】

特に目立った活動はなかった。なお、平成25年はじめ頃から浜名湖付近のプレート境界で発生している「長期的ゆっくりすべり」は、現在はすでに停止していると考えられる*。

【東海地域】

〔地震活動〕

- ・23日23時58分に愛知県西部の深さ35kmでM3.0の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。
この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。

〔深部低周波地震（微動）活動〕

- ・21日と25日に、三重県（領域a）を震央とする深部低周波地震（微動）を観測した。

【その他の地域】

- ・25日以降、和歌山県（領域b）を震央とする深部低周波地震（微動）を観測している。

※上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみ表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

*平成29年7月地震防災対策強化地域判定会会長見資料（<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/gaikyoku/hantei20170724/mate01.pdf>）参照